

1 梨の生育状況

(1) 開花期

3月下旬以降、気温がかなり高くなったことから、「新高」の満開は平年に比べ3日早くなりました。また、「新高」開花以降は一旦気温が低くなったものの、その後は再び気温が高くなり、「幸水」の満開は平年より2日早くなりました（右表）。

令和7年 呉羽地区日本なし開花状況

(吉作平場基準)

品種名	開花始め			満開		
	本年	前年比	平年比	本年	前年比	平年比
幸水	4月15日	0	▲1	4月18日	1	▲2
豊水	4月11日	▲1	▲2	4月14日	0	▲2
あきづき	4月14日	▲1	1	4月16日	0	1
新高	4月8日	▲3	▲2	4月11日	▲1	▲3

▲は早いことを示す(例: ▲6は「6日早かった」)。

(2) 気象被害等の発生状況

4月10日の夜に一部地域で、また、16日の未明～明け方にかけて広い範囲で降霰が確認されました。いずれも短時間だったことから、大きな被害には至らないと思われませんが、多少の障害果（キズ果）は発生すると予想されます。

また、4月17,18日の異常高温により「幸水」の長果枝を中心に花の萎れが散見されましたが、一時的な症状であり、結実に大きな影響はないと思われます。

2 1回目摘果作業の留意点

- 十分な結実が見込める場合は、満開 30 日後を目安に1回目の摘果を終了するよう作業を進めてください。
- 病害虫被害果や霰（アラレ）等による傷の有無を十分に確認し、被害が多い場合は、結実状況や果実の状態を十分確認したうえで摘果作業を行ってください。
⇒結実量が少ない場合は、通常は摘果するような奇形果や傷果等も残し、新梢の過繁茂や強樹勢化を防ぐ。ただし、黒星病等のり病果は、必ず摘除する。

3 コンフューザーNは確実に設置しましょう！

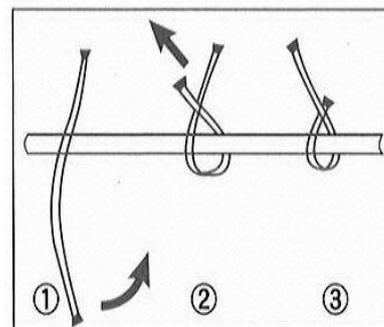
- ◎本年、産地全体でハマキムシ類の発生が見られ、一部地域ではかなり多い状況です。
- ◎「コンフューザーN」を設置することで、次の世代の幼虫発生を確実に減らすことができるので、なるべく早期に、必ず設置してください（なお、現在の呉羽梨防除暦は、コンフューザーNを設置することを前提に殺虫剤を削減しています）。
- ◎コンフューザーNは、産地全体で設置することで、より高い防除効果を発揮します。

(1) 設置方法（右図）

- ①設置本数：全園・園地全体に150本/10a
- ②設置時期：4月26日～5月5日
- ③設置間隔：約2.6m間隔
(3間植えの園地では1樹当たり4～4.5本を設置)

(2) 設置上の留意事項

- ①ほ場の外周は多めに設置し、単独園や道路等に面している園では、外周の防風ネットを張り、成分の飛散を防止する。
- ②ほ場内に未成木樹や間伐等で樹を植えていない場所があっても、これらの場所を含めほ場全体に設置する。
- ③傾斜地では斜面上側を多めに、下側は少なめに設置する。
- ④周辺にモモやウメがある場合には、これらも含めて設置する。



梨棚の番線に巻きつけてから、一端を輪にくぐらせて固定してください(強く引っ張り固定すると端が切れる恐れがあるので、注意して下さい)。

図 コンフューザーNの設置方法

4 これからの防除について

黒星病の伝染源の一つである落葉からの子のう胞子は、今後本格的な飛散シーズンとなります。防除は「降雨前」、SSは「低圧、低速、全列走行」を心掛け、散布ムラがないように努めてください。

回数	散布月日	薬剤名と希釈倍数	散布量	主な対象病害虫	防除実施日 (自己記入)
	4月26日 ～5月5日頃	コンフューザーN 150本/10a 必ず設置してください!		リンゴコカクモンハマキ、モモンク 幼、ナシヒメシクイ	
7	4月29日 ～5月1日 (落花10日後)	オーシャイン水和剤 3,000倍 トレノックスフロアブル 500倍 ハチハチフロアブル 2,000倍	300 リットル	黒星病、赤星病、 心腐れ症(胴枯病菌) ニセナシサビダニ、アブラムシ 類、クワコナカイガラムシ	
8	5月8～10日 (小豆大)	ユニックス顆粒水和剤47 2,000倍 トレノックスフロアブル 500倍 サイアノックス水和剤 1,000倍	300 リットル	黒星病、赤星病、黒斑病 心腐れ症(胴枯病菌) シンクイムシ類、ハマキムシ類 アブラムシ類	
9	5月17～19日	デランフロアブル 1,000倍	300 リットル	黒星病、赤星病、輪紋病 心腐れ症(胴枯病菌)	
10	5月26～28日	ベルコートフロアブル 1,500倍 アプロードフロアブル 1,000倍	300 リットル	黒星病、輪紋病、 うどんこ病 カイガラムシ類幼虫	
11	6月5～7日	オキシラン水和剤 600倍 ファルコンフロアブル 6,000倍 トランスフォームフロアブル 2,000倍	300 リットル	黒星病、輪紋病 ハマキムシ類、ケムシ類 カイガラムシ類、アブラムシ類	

①【重要】コンフューザーNの設置は、必ず実施してください。

- ②アブラムシ類の発生(葉を内側に巻いて加害する)が見られたら、早めにアドマイヤー水和剤(2,000倍)を散布してください。
- ③梨園に隣接して植えられているモモ、ウメの「心折れ」は、ナシヒメシクイの発生源となるので、速やかに切除し、園外に持ち出し適切に処分してください。
- ④カメムシ類の常発園、シンクイムシ類多発園では、アクタラ顆粒水溶剤(2,000倍)を散布してください。
- ⑤【重要】ハマキムシ類の発生が多い園では、5月中旬頃にファルコンフロアブル(6,000倍)を単剤で散布してください。
- ⑥散布に当たっては、希釈倍数や対象病害虫など、農薬容器のラベルを必ず確認してください。
- ⑦周囲の他作物や住宅等への飛散防止に努めてください。特に通学路に面した園地では、登下校時の時間帯を考慮して散布してください。また、防除開始時間は、午前5時以降としてください(午前4時台にSSのファンを回さないでください)。
- ⑧天候等の都合により防除間隔が10日以上空かないよう十分注意してください(10日以上空くと農薬の残効が切れ黒星病の感染リスクが高まります)。雨天が予想される場合は、降雨前散布を心掛けてください。
- ⑨黒星病の芽基部病斑や病葉・果実は、見つけ次第、速やかに切除し、園外に持ち出し適正に処分してください。
- ⑩10回目のアプロードフロアブルと11回目のトランスフォームフロアブルは、カイガラムシ類に有効な殺虫剤です。薬剤の効果をより高めるため、カイガラムシ類の付着が多い箇所をワイヤーブラシ等で削り落とすとともに、交配樹の立枝の切り下げや間引きを行い、薬剤をかかりやすくしてください。